



水戸部長から、「教育ビジョン」を基に、これまでの学校と地域との関係をさらに質を高めて多様化していく等、世田谷版地域教育基盤の概要の説明がありました。

望月社会教育主事から、NPOとの協働事業で今年テスト配置している学校支援コーディネーターが成果を挙げていることや、これらの活動をまとめた啓発資料を発行していく予定である等具体的な取組が報告されました。

また、平山副校長からは、小・中学校合同の学校協議会が、すべての地域で開かれ、地域・保護者等が、教育課程に参画していくことが重要であり、世田谷区全域に広がっていくことを願っているとの報告がありました。

(4) パネルディスカッション「地域教育力を再構築するための“協働”のあり方」

パネラー 生重 幸恵 (NPOスクール・アドバイス・ネットワーク理事長)

倉橋 保恵 (杉並区立大宮中学校校長)

坂井 康宣 (小平市教育委員会教育長)

若井田正文 (世田谷区教育委員会教育長)

コーディネーター 村上 徹也 (社団法人日本青年奉仕協会調査研究員)

各パネラーの方からは、次のような発言(抜粋)がありました。

【坂井教育長】

「総合的な学習の時間」の指導計画を教師がひとりで作ろうとしても無理があり、教える側にも、多彩で多様な人材の確保の視点から、学校支援ボランティアの導入をはかっていくことが必要なのです。

家庭の教育力・地域の教育力が落ちたといわれていますが、昔より、現在のほうが力があるはず。ただ、心の絆(ネットワーク)を喪失しており、それを再生すれば地域の教育力は十分にあると思います。

「総合的な学習の時間」によって、「市民性」をはぐむ教育ができるようになりました。地域の方と一緒に活動してこそ、地域社会に認められ、地域社会に貢献できる子どもが育つと思います。だからこそ、もっと多くの市民の方に学校にかかわってほしい。

多くのボランティアの方が、いろいろな分野に参画し、活動しています。コーディネーターが、学校とボランティアを調整し、組織しているのです。

【倉橋校長】

「公立学校は、地域に育てられる学校」という確信を持っています。学校を応援してくれる人と一緒に学校を作っていく、地域の様々な教育力を学校に生かしていくと思っています。

校長が変わると経営理念もゼロに戻ってしまう傾向があり、「大宮中学支援ネットワーク」を作りました。コーディネーターと話す時も、企業の方と話す時も、常に一緒に参加していただいて、課題の共有化を図っています。

【生重氏】

よりよい公教育をつくっていくためには、学校任せにするのではなく、地域の大人たちも積極的に学校の教育活動に参画していく必要があります。その中で何といても重要なのが教員と良好なコミュニケーションづくりです。先生の思いを理解し、それを実現するサポートをするのがコーディネーターの役割です。先生の眼が輝けば、子どもたちの眼も自ずと輝いてくるのです。こうした一つひとつの営みを通じて、地域によりよい教育環境をつくっていけるといいなと考えています。

【若井田教育長】

世田谷区教育ビジョンでは、「地域とともに子どもを育てる教育の推進」を一番の施策としています。それは、第一に、義務教育公立学校は、地域及び地域の保護者・子どものためにあるからです。第二に、学校だけで自己完結する時代は過ぎ、地域の教育力が必要だからです。

世田谷区は、街づくりにおいても学校教育においても地域の力を大切にしてきた実践の歴史があります。ですから学校選択制を採用していません。これから世田谷版地域教育基盤を整備していきたいと考えています。

【村上氏】

まとめとして、「皆さんの質問で出されていた、家庭の教育力の問題・コーディネーターの重要性・市民性の育成・学力をどう高めていくか等のメカニズムを考え合っていくことが、これからの私たちの『協働』して作っていく教育のあり方ということが、明らかになったと思います。」